

しと。

平穩無事
は果して
眞乎漢人對回
民

今日回民が平穩無事の狀態は、果して眞の平穩無事なる乎。予は大に疑ひ無きを得ざるなり。既に其の頭目たる董福祥は、所持の兵器を悉く蘭州の武庫に納め、端郡王亦世事に關せざるもの、如し。政府は専ら廉潔の士を擧ぐるに勉め、而して何等の不穩あること無し。然るに尙ほ疑ふ所ありと云ふは何ぞ。

獨り憾む、漢人は回民を侮蔑すること殊に甚しく、彼等を劣等人種視して待遇すること極めて酷なり。況んや彼等は肥沃の地より追ひ去られ、現に齊しく荒涼たる山間の瘠地に棲息せり。苟も一縷の性靈、其の體中を通ずる者あらん限りは、如何んぞ機を見て一撃之を頂門に酬ひざるべき。回民の狀況實に憐むべきを察すると共に衷心快々たるの情又知るに餘あり。是に於てか其の表面平穩の狀態は、何ぞ料らん他日怒濤回瀾を起すの兆たるを得ざれば幸のみ。

彼等互に氣脈を相通じ且つ一種特有の團結心、牢乎として抜くべからざるもの有る上に、新疆の同族同宗者を煽動使喚するの力ありと謂ふに至りては、豈寒心せざるべけんや。此際に於ける清國政府の施設將た如何。予は特に多大の注意を